

歴民館だより

ミニ企画展

「たかおの生まれの絵描きさん・古城江観展」

●開催期間：令和6年8月1日(木)～同9月8日(日)

●開催場所：高尾野郷土館・古城画伯コレクション館



夏休み期間であることから、“小さい子どもにわかりやすく”を主軸として、地元高尾野出身の古城江観の作品(絵画・版画)や、世界各地を巡る時に使用したトランクなど展示しました。児童向けの解説は大人にも好評で幅広い年代の興味・関心を得られ、展示内容を盛り込んだクイズにも多数参加していただきました。



企画展

「～石でつくられた道具～たくさんの石器展」

●開催期間：令和6年10月1日(火)～同12月1日(日)

●開催場所：出水歴史民俗資料館



出水市近郊で収集された旧石器・縄文時代に作られたと考えられる石器類13箱と、石器についての紹介や出水貝塚から出土した動物の写真パネルを展示しました。用途に合わせて作られた石器の精巧な技術に、多くの方が目を凝らして見学されていました。また、縄文時代の人々が食べていた“食べ物カード”を作成し、児童が自由に遊べるように設置しました。

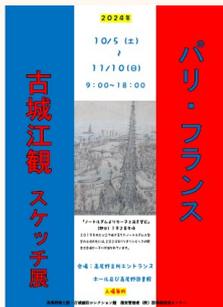


ミニ企画展

「古城江観スケッチ展 パリ・フランス」

●開催期間：令和6年10月5日(土)～同11月10日(日)

●開催場所：高尾野支所玄関ホール・高尾野図書館



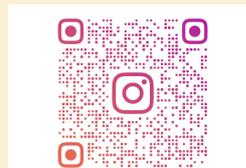
古城江観は1928(昭和3)年から翌年にかけて、フランスに滞在しています。パリでは単独の個展も開催しました。今回はこの夏開催されたパリオリンピックの開会式会場となったセヌ川、出水市出身の一山麻緒選手が走ったマラソンコース近くのトロカデロ宮(現シャイヨー宮)、2019年の大火災で壊滅的な被害を受けたノートルダム大聖堂などの作品を展示しました。異国情緒にあふれたスケッチやエピソードなど、たくさんの方に楽しんでいただけたようです。



最新情報はこちらでチェック!



3館(出水・高尾野・野田)の行事案内や資料紹介、季節に合わせたオススメ、また様々な動画やオンライン視聴ができる展覧会など随時更新しています。右のQRコードからぜひ読み込んでご覧下さい♪



REKI.MIN.SHIRYOKAN.IZUMI
Instagram



YouTube
チャンネル



歴民館
ホームページ

出水歴史民俗資料館

出水市本町3番14号
中央図書館2階
☎ 0996-63-0256(直通)

高尾野郷土館 古城画伯コレクション館

出水市高尾野町大久保
158番地5
☎ 0996-82-1467(直通)

野田史料館

出水市野田町上名6094番地1
野田図書館内
☎ 0996-84-3100(図書館)

子ども体験講座

「発掘して遊べる!貝塚せっけんをつくろう」

- 開催日時：令和6年7月28日(日)午後1時～
- 開催場所：出水市立中央図書館 研修室
- 参加人数：33人(子ども21人、大人12人)

貝塚のような“層”が見える“せっけん作り”は初の試みとなりました。寒天・食紅・ハンドソープを混ぜた液を冷蔵庫で冷やすと完成します。層を2回に分けて流し入れ、冷やし固める待ち時間には歴史館で貝塚の展示を見学しました。貝ではなくビーズ入りにし、見た目はゼリーのような、キラキラプルプルのせっけんが完成しました!楽しく学べる講座となりました。



計)となりました。出水郷土伊藤祐之の『天保八年丁酉日記』をテキストとして、当時の生活を思い浮かべながら、各自熱心に解読に臨みました。



夏休み歴史クイズ

- 期間：令和6年8月1日(木)～同9月8日(日)
- 参加総数：99人(出水歴史民俗資料館：50人、高尾野郷土館：15人、野田史料館：34人)

展示に関するクイズを3館(出水・高尾野・野田)で開催しました。高尾野郷土館ではミニ企画展とコラボし古城江観について、より理解が深まりました。



景品は大人気の
ひっくりコマ!



子ども体験講座 「～ナイトミュージアム～ ねらわれた資料をまもれ!

- 開催日時：令和6年8月15日(木)午後5時～
- 開催場所：出水歴史民俗資料館
- 参加人数：25人(子ども14人、大人11人)

昨年に引き続き「探偵・怪盗Zからの挑戦」をコンセプトとして開催しました。照明を最小限にした暗い館内で、展示に関する謎解きに挑戦!謎解きは3問あり、親子で協力しながら一生懸命謎解きに取り組み、40分程で謎解きを達成されました。景品はライト付きの防災ペン!夏休みの思い出になったようです。



中央図書館とのコラボ企画 「タイムスリップ読みきかせ」

- 開催日：令和6年11月2日(土)午後1時～
- 開催場所：中央図書館・出水歴史民俗資料館
- 参加人数：6人(子ども3人、大人3人)

図書館で昔ばなしの紙芝居や絵本の読み聞かせ、ミニクイズをした後、2階の歴史館へ移動し、昔ばなしに登場した道具の使い方など紹介しました。

- 絵本『でるでるでるぞ』 ●紙芝居『つるのおながえし』
- 大型紙芝居『したきりすずめ』 ●紹介した道具「お膳」「桶」他



☆ご見学ありがとうございました☆

※「高尾野郷土館・古城画伯コレクション館」を紙面の都合上、高尾野館と表記しています

- 令和6年5月18日(土) 出水歴史民俗資料館
YA 図書館クラブ 12人
- 令和6年5月22日(水) 高尾野館
高尾野中学校特別支援学級 4人(引率含)

古文書解読入門講座

令和6年6月1日から毎週土曜日(全5回)、中央図書館研修室にて古文書解読入門講座を開講しました。講師は出水史談会の脇岡隆夫氏、参加者は38名(5回総

- 令和6年5月29日(水) 出水歴史民俗資料館
出水中学校1年生 33人(引率含)
- 令和6年5月30日(木) 高尾野館
高尾野中学校2年生 101人(引率含)
- 令和6年6月11日(火) 高尾野館
平尾中学校卓球部 4人
- 令和6年6月12日(水) 野田史料館
野田小学校2年生 31人(引率含)
- 令和6年7月23日(火) 野田史料館
出水市教頭会 29人
- 令和6年8月6日(火)
出水市歴史民俗資料館(出水・高尾野・野田)
フレッシュ研修 34人(引率含)
- 令和6年9月14日(土) 高尾野館
デイハウスふたば 6人(引率含)
- 令和6年10月11日(金) 出水歴史民俗資料館
出水特別支援学校中学部1年生 10人(引率含)



☆出前講座☆ 講師：出水史談会 脇岡隆夫氏

- 令和6年11月1日(金) 東出水小学校
東出水小学校4年生 60人(保護者など含む)
講話「山田昌巖は、どんな人？」

☆当館所蔵刀剣錆止め処置☆

- 令和6年10月17日(木)
出水史談会 脇岡隆夫氏にご指導賜りました。



☆くん蒸防虫防カビ処理完了☆

令和6年9月18日～20日、高尾野郷土館・古城画伯コレクション館、野田史料館では、文化財を蝕む害虫の駆除や防カビ対策として、くん蒸処理が行われました。休館へのご理解・ご協力ありがとうございました。

☆歴史講座☆ ご参加ありがとうございました

令和6年度の歴史講座が開催されました。

- 日 時：令和6年10月12日(土)午後2時～
- 講座名：「出水の文化財の意義と展望」
- 場 所：出水市立中央図書館 研修室
- 講 師：上原憲一氏(出水市文化財保護審議会委員)
- 参加者：20人

【内容】出水はもとより全国各地の歴史・文化財に興味を持ち、視野を広げることで“感性”を磨き、文化財を後世に残す重要性について説明されました。また、文化財を生かした地域活性化への今後の展望についても、お話いただきました。心より感謝申し上げます。



☆おさんぽビンゴ・三館シールラリー☆

ビンゴ用紙2種類(出水麓・出水史跡)、シールラリー台紙とシールは3館各館にあります。お気軽にお声がけ下さい♪秋のお散歩にピッタリ！大好評です♪



📣体験講座📣 🌱お正月に開催🌱

「みんなであそぼう！かるた大会」

- 日 時：令和7年1月5日(日)午後1時～2時
- 場 所：出水歴史民俗資料館 民具室
- 事前申し込みなし！年齢制限なし！
- 参加料 無料

かるたが出来る方ならどなたでも大歓迎です！
みんなで一緒に、楽しく遊んでみませんか？
帰省中の方もご参加お待ちしております♪



❖ 出水史談会 活動報告 ❖

「出水史談会」について

出水市の歴史や文化を主体的に研究したいとの思いから、有志により平成24年3月に設立された歴史研究会です。定例会や会員による研究発表の場を設けていますが、新型コロナウイルス流行により一時中断していました。令和5年に開催された講座を活動報告として内容をご紹介します。

「歴史講座」

「高屋敷を出水麓と称すること」

出水史談会 脇岡 隆夫

はじめに

江戸時代、薩摩では藩政を行う鹿児島城を中心に、各地域毎に「外城」と称する地方行政拠点が置かれ、郷土と呼ばれる下級武士団が防禦を目的として居住していた。

この郷土達の居住域を「麓」と呼んでいる。その中でも「出水麓」は、薩摩最大の広さと郷土数の多さを誇っていた。しかし、現在なぜか、出水麓という時、多くの方は出水小学校前の、通称「高屋敷」地区（自治会名でいうならば、諏訪馬場、堅馬場、山崎等）のみを限定して「麓」と捉えている。不思議である。

出水城の成立と変遷

「麓」という用語は、文字通り「山城」の麓に立地することを由来とする。

「出水城」の成立は定かではないが、12世紀終末期、肝付氏の流れである「伴系島津氏」一族の「和泉兼保」が入城したことに始まるという。

文献的には『龍光寺文書』によると「15世紀中頃、島津本家九代忠国の弟用久が、出水「水府ヶ城」を築き、「薩州島津家」を称した」とある。「水府」は現在では、城郭の一部を指す地名であるが、用久が構えた水府は、後の出水城全体を指すものと考えたい。

出水外城の成立

政権が豊臣氏から徳川氏へ移る中で出水の地は、島津本家に宛がわれ、16世紀初頭、拠点は中世山城「出水城」から「麓」に移った。「麓」には藩主の名代として派遣された「地頭」が政務を執る「地頭館（仮屋）」が建てられ、館の周囲には防禦のための家臣団が配置された。これが薩摩独特の統治制度「外城制度」の代表的存在「出水外城」である。

出水麓

薩摩藩最大の外城である出水外城は、武士の居住地域である「麓」、商業地域「野町」、農村地域「在」、漁業地域「浦」から構成されていた。エリアとしての出水麓に目を向けると、「地頭館」から旧出水城が立地する「城山」と呼ばれる

シラス台地周辺を中心に、大川内下平野地域から米ノ津川右岸の「太田地区」、「城山」を平良川によって分けられた対岸の「向江地区」、さらにその北部の箱崎八幡宮にかけての現在の「西出水地区」、さらには宮之城と境をなす紫尾山麓も「出水麓」に含まれていたことが文献的に分かっている。いうならば、旧出水町のほとんどが「出水麓」であったことが言える。まさに、薩摩最大の「麓」である。

高屋敷を麓と見なす

では、本来出水麓のごく一部の地域であったはずの「高屋敷」地区が、あたかも麓のすべてであるように見なされるようになった理由はどこにあるのだろうか。

武士にとって最も重要な存在は「城」であるという。精神的にも拠って立つ場所は「城」であり、「城」あつての武士と言っても過言ではないだろう。「城」から「麓」に拠点が移ったとしても、武士は拠り所として「城」の存在を必要とした。この「城」を構成する三大要素があることを指摘しておきたい。「堀」「石垣」「城郭」である。

「高屋敷」地区の東側に、米ノ津川（広瀬川）が南から北へと流れる。また「高屋敷」とその北側に広がる「向江地区」との間を、北西から北東に流れ、やがて米ノ津川と合流する「平良川」が存在する。

「鹿児島城」の例等、河川が「堀」の機能を満たしているケースはいくつも存在する。

また「高屋敷」地区は、「城山」から出水平野に連なるテラス状の台地上に位置する。この台地を巡る周辺部の多くは、高さ10m以上の崖状を呈しており、まさに「石垣」の観がある。

このシラス台地の「石垣」で囲まれた中心部に、「地頭館」が建てられている。これもまさに、城郭に代わる「館」と捉えることが可能である。

以上のように、出水「高屋敷」地区は、河川による「堀」、シラス台地の崖による「石垣」そして「地頭館」という「館」という三要素で構成された「近世の城」として地域住民から理解されるようになったと考えるならば、「高屋敷」地区のみが「出水麓」であると見なされるようになった理由が納得できるのではないだろうか。

おわりに

「高屋敷」地区は、河川や断崖によって他の「麓」地区から分離された地理的特性を持ち、そこに住む郷土達が自らを「出水郷土」の中でも、一段格式の高い存在だと認識していたとしても不思議ではない。そのことは、後世の人々に、「高屋敷」は高級武士が住居を構えた地域であったという誤った認識を抱かせるにも十分な事情であった。

「高屋敷」の「高」は、高級という意味ではなく、また高額の禄を食んでいた武士の居住区でもなく、実は単に高台に広がっていた屋敷群という理解でよいのではないだろうか。

※ 本稿は、令和5年11月22日（日）高屋敷地区「三原邸」で行われた歴史講座の要旨である。

（文責：脇岡）